



HEKIZAN

西東京市立碧山小学校
校内研究だより
令和2年12月7日(月)

Education News

3年生「伝えよう！スーパーマーケットの工夫」

3年生は、社会科で「伝えよう！スーパーマーケットの工夫」の学習に取り組みました。

社会科の学習は3年生から始まります。これまでに、西東京市の地形や土地の利用の仕方について学習し、自分たちが住んでいる地域にはたくさんの店があることを学んできました。「伝えよう！スーパーマーケットの工夫」では、児童にとって身近な存在である、スーパーマーケットを取り上げ、店で働いている人々の工夫について学習します。授業では、店で働いている人が行っている工夫の理由について考えました。

スーパーマーケットのキャベツ売り場の写真を見せると、子どもたちはすぐに「大きさが違う！」と気付きました。キャベツは1玉、1/2玉、1/4玉などで販売されていることがあります。さて、なぜわざわざサイズの違うキャベツが売っているのでしょうか。子どもたちは写真を見ながら3人組で話し合いました。「家族の人数によって使う量が違うから。」「使い切れるようにするため。余ると食品ロスになってしまう。」「といった、SDGsの12番「つくる責任つかう責任」に通じる意見が出ました。他にも、精肉コーナーに鍋のつゆが売っていたり、大根やたまご、練り製品がまとめられた“おでんコーナー”があったりと、スーパーマーケットにはまだまだ多くの工夫があります。「まとまっていると買い物しやすいから。」「献立が考えやすいから。」など、それぞれの工夫の理由を考えました。様々な考えが出た結果、買い物しやすい工夫がされていると気づき、買い物しやすいお店には「また行きたい。」と思うお客さんが多いのではないかと考えることができました。

多くの方が利用するスーパーマーケットでは、商品の並べ方や置き方、商品そのものの売り方など、様々な工夫がされています。消費者の願いに応えることで、多くのお客さんが来ればSDGsの8番「働きがいも経済成長も」につながります。来店する消費者が不自由なく過ごせるように努力することが、SDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」につながります。また、マイバッグ利用の推奨やトレイの回収など、店側と消費者が共に環境を守る取り組みをする必要があり、SDGsの12番「つくる責任つかう責任」について考えることにつながります。

3年生は社会科の授業を学びながら自然にSDGsの視点も取り入れて学習を進めています。



11 住み続けられる
まちづくりを



8 働きがいも
経済成長も



12 つくる責任
つかう責任

